

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 13年5月 ～円安の影響で輸出入ともに高い伸びに

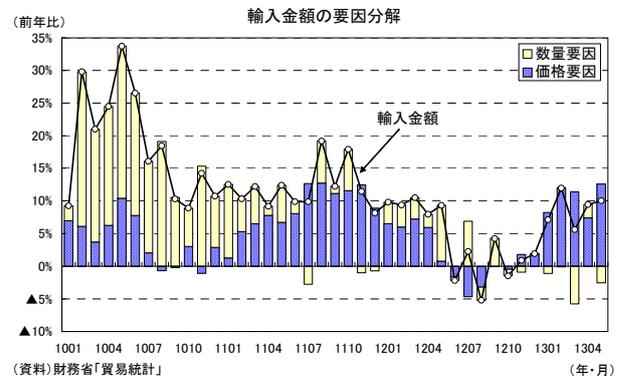
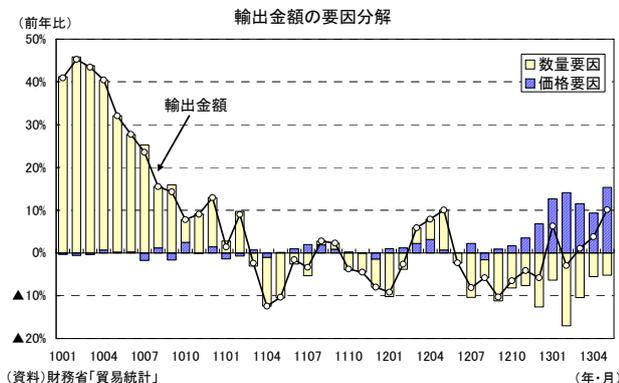
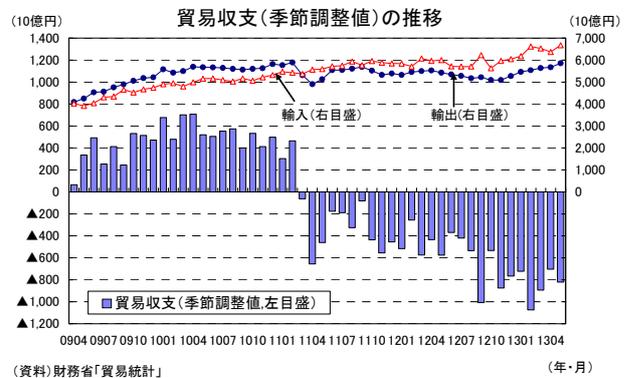
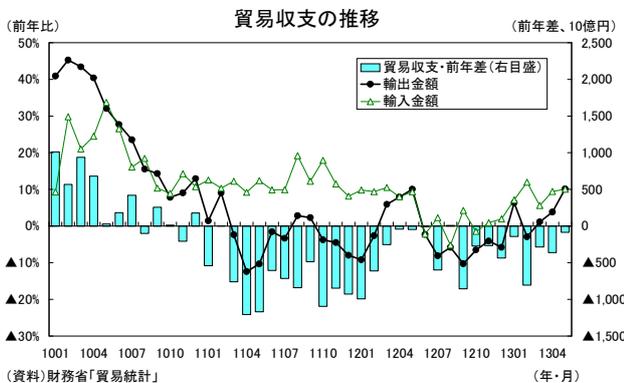
経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出が1年ぶりに前年比で二桁の伸びに

財務省が6月19日に公表した貿易統計によると、13年5月の貿易収支は▲9,939億円と11ヵ月連続の赤字となったが、赤字幅は事前の市場予想（QUICK集計：▲11,895億円、当社予想は▲11,553億円）を大きく下回った。円安に伴う輸出入価格の大幅上昇を主因として、輸出（4月：前年比3.8%→5月：同10.1%）、輸入（4月：前年比9.5%→5月：同10.0%）ともに前年比で二桁の伸びとなった。輸出が前年比で二桁の伸びとなったのは、12年5月以来1年ぶりである。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.8%（4月：同▲5.3%）、輸出価格が前年比15.7%（4月：同9.6%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲2.4%（4月：同2.0%）、輸入価格が前年比12.8%（4月：同7.3%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲8,210億円と27ヵ月連続の赤字となり、4月の▲7,028億円から赤字

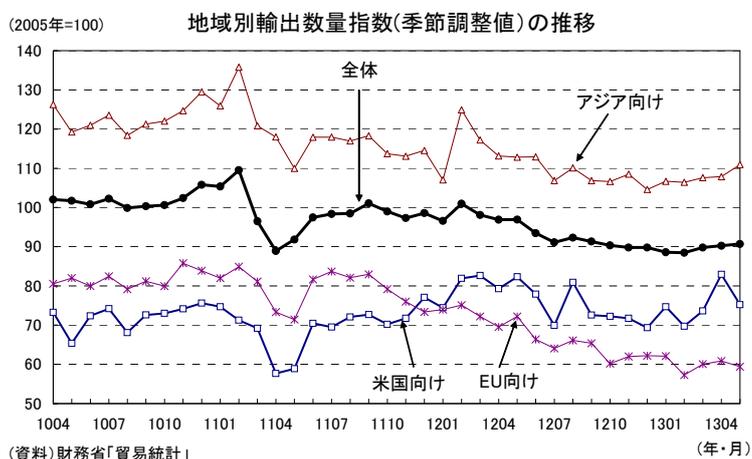
幅が拡大した。輸出は前月比 3.2%（4月：同 0.6%）と前月から伸びを高めたが、輸入が前月比 4.7%（4月：同▲2.4%）と3ヵ月ぶりの増加となり、輸出の伸びを上回った。季節調整済の貿易赤字は3ヵ月ぶりに拡大したが、基調としては貿易赤字の拡大傾向には歯止めがかかりつつあると判断される。四半期ベースの貿易赤字は13年1-3月期がピークとなり、4-6月期以降は徐々に縮小傾向となることが見込まれる。

2. 輸出の持ち直しが継続

5月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲8.7%（4月：同 4.5%）、EU向けが前年比▲17.9%（4月：同▲12.6%）、アジア向けが前年比▲1.7%（4月：同▲5.0%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲9.3%（4月：同 12.6%）、EU向けが同▲2.4%（4月：同 1.3%）、アジア向けが同 2.9%（4月：同 0.2%）、全体では同 0.5%（4月：同 0.5%）であった。

米国向けの輸出数量は大幅に低下したが、前月の高い伸びの反動によるところが大きい。4、5月の平均を1-3月期と比較すると、米国向けが 8.8%、EU向けが 0.5%、アジア向けが 2.3%高い水準となっており、景気が比較的堅調な米国向けが輸出を牽引するという構図が維持されている。

1-3月期のGDP統計では、輸出が前期比 3.8%の増加となり、4四半期ぶりに成長率の押し上げ要因となったが、円安による押し上げ効果がさらに拡大することにより、4-6月期も輸出は高めの伸びとなる可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。